

令和2年度より MPH コースに入学しました山内優輔と申します。大学を卒業して今年で9年目になります。愛媛県で初期研修を終了後、岡山県北で家庭医として働いてきました。

入学前は論文を原著で読むことは恥ずかしいことにあまりなく、二次資料や教科書を読み臨床的な情報を得て、診療をしていました。しかし、原著論文を読み目の前の患者さんにどう活かすかを考えたり、論文になっていない Clinical Question を研究したりすることの必要性を感じていました。

独学ではなかなか理解が難しかったこれらのことを、入学してから学びを深めており、面白さと奥深さを実感しています。令和2年度より新型コロナウイルスの影響で、オンラインと対面を合わせたハイブリッド型授業となっていますが、そのおかげで遠隔でも参加しやすくなり、先生に詳しく聞いたり相談したりしたいときには大学に来て議論することができています。

また疫学だけでなく医療政策や産業保健などの授業もあり、マクロな視点で医療を考えることができ、自分の診療を振り返り、よりよい医療につなげる貴重な機会となっています。

私は入学して1年経過しましたが、臨床だけに専念していたときと比べると、原著論文を読むことだけでなく、批判的に吟味したり、どのように研究につなげるかを考えたり、視点の広さを感じたりと様々な成長を実感しています。

2年間の MPH コースは今後のためにも貴重な期間となると思います。疫学について勉強したい、研究して論文を書いてみたい、臨床をする上でももっと成長したいと思っている方など、ぜひ一度来てみてください！